

りんごの根張り与环境条件

果樹試験場

根は植物の生命活動を支える重要な器官で、その量や状態は収量・品質に大きく影響します。りんごにおいて根の張り具合は、かん水の有無や窒素施肥の多少によってどう変わるのでしょうか。

<かん水の影響>

平成23年と24年にシナノスト／M. 9ナガノの幼木に点滴かん水を行なった結果、かん水を行った場合は、かん水を行わなかった場合に比べて根量が多くなりました（写真）。特に、水がしたたり落ちる場所の周辺で根が多いことがわかりました。さらに、かん水を行った方が、地上部の生育も良好でした。

樹の地上部と地下部の量的比率をT／R率といいます。一般にはT／R率は低い（地上部に対して地下部が多い）方が好ましいとされています。今回の試験では、かん水の有無によりT／R率はほとんど変化しませんでした。

<窒素施肥>

平成10年に栽植したふじ／M. 9ナガノ／マルバカイドウ樹に1年間に窒素0kg～60kg/10a施用したところ、窒素を施用しない方が根の量が多くなりました（図）。養分が少ない環境では、りんごの樹は養分を求めて根を張るのかもしれませんが。一方、窒素施肥の多少は根量に影響を与えないという試験結果もあります。いずれにしる窒素施肥が根量を増やす効果はあまりないようです。

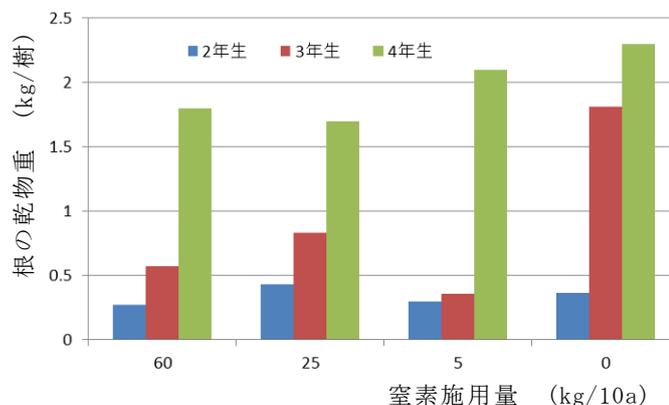


図 根の乾物重と窒素施用量
(堆肥由来窒素含む) の関係

写真 点滴かん水の有無と根量

担当者	加藤 秀一	電話番号	026-246-2411
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[果樹試験場ホームページへ](#)